

課題NO.1

土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着



活動期間：令和3年度～令和5年度

対象：有限会社薬師農産、農事組合法人かすかわ

チーム員：千葉研一郎、中村寛、堀越綾子、高橋怜史

1 課題の背景・ねらい

(背景)

- 大郷町前川地区では、農地整備事業（370ha）が予定されている。
- 高収益作物として、えだまめやねぎの導入が検討されている。
- 対象の2法人は、当地区内の担い手であり、農地整備事業に先駆けて、えだまめ栽培に取り組むことになった。
- えだまめ栽培の導入は、水稻や大豆の作業との競合が課題となる。そこで、収穫から出荷調製作業の省力化・分業化や早晩性の異なる品種の組合せによる作期分散に向けた支援が必要となっている。
- 町、JAでは、えだまめを振興作物として位置づけている。

(ねらい)

定性的目標：・栽培技術の習得により反収が向上する。
・出荷体系が検討される。

定量的数値目標：10a当たり可販収量 R4：240kg（※中早生種及び晩生種の平均値）

2 活動内容

(1) 排水対策・雑草防除等栽培技術支援

排水対策実演会の開催及び排水対策現地実証ほの設置



カッターブレーカー

補助暗渠施工（2月、4月）

2 活動内容

(1) 排水対策・雑草防除等栽培技術支援

- 栽培にあたって、肥培管理、雑草防除等の栽培体系を確認。
- 転作えだまめの栽培事例について先進地研修を実施。



対象法人、JAとの栽培体系の確認



先進地視察研修

2 活動内容

(2) 出荷体系の検討

- 大郷町内のえだまめ栽培面積の拡大 (2.3ha→6ha) →栽培スケジュールの検討・調整
- 機械収穫に適する品種の検討試験 (薬師農産) → 7月の大雨被害により中止
- えだまめ栽培に関する経営調査 (薬師農産) → 7月の大雨被害により中止



栽培スケジュールの打合せ

品種	5月			6月			7月			8月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
湯あがり娘1 (中早生)		● 5/15播種					◎ 6/30開花				■ (81日)	■ 8/4収穫	
湯あがり娘2 (中早生)			● 5/20播種				◎ 7/5開花				■ (80日)	■ 8/8収穫	
湯あがり娘3 (中早生)			● 5/25播種				◎ 7/8開花				■ (78日)	■ 8/11収穫	
湯あがり娘4 (中早生)					● 6/1播種		◎ 7/13開花				■ (76日)	■ 8/16収穫	
ゆかた娘1 (中生)			● 5/15播種								■ (94日)	■ 8/17収穫	60a
湯あがり娘5 (中早生)					● 6/5播種		◎ 7/17開花				■ (75日)	■ 8/19収穫	
ゆかた娘2 (中生)			● 5/20播種				◎ 7/15開花				■ (92日)	■ 8/20収穫	60a
湯あがり娘6 (中早生)					● 6/10播種		◎ 7/20開花				■ (74日)	■ 8/23収穫	8/21 60a
ゆかた娘3 (中生)			● 5/25播種								■ (90日)	■ 8/23収穫	
ゆかた娘4 (中生)					● 6/1播種		◎ 7/22開花				■ (87日)	■ 8/27収穫	8/25
つきみ娘1 (中晩生)			● 5/25播種								■ (94日)	■ 8/27収穫	
湯あがり娘7 (中早生)					● 6/15播種		◎ 7/25開花				■ (74日)	■ 8/28収穫	

播種～収穫スケジュール表

3 これまでの活動成果

(1) 排水対策・雑草防除等栽培技術支援

- 排水対策について、薬師農産の試験ほ場の一部を除いて、すべてのほ場に補助暗渠の施工が行われた。
- 排水対策の効果をみるため、定期的に生育調査等を実施しており、調査は現在も継続中である。土壌水分の調査経過ではカットドレーン区が3区の中では良好な値を示している。
- 排水対策に関して生産者は、降雨後の排水改善について効果を実感している。
- 雑草対策として、除草剤と中耕培土による防除体系を組み立て、これに準じて作業が行われた。これにより、畝間の雑草は防除できたものの株間に発生した広葉雑草の防除に課題が残った。
- 先進地視察研修では、参加者らは、肥培管理や雑草防除、収穫機械の説明に対して熱心に耳を傾けるとともに、各々の関心に応じて情報交換を行う姿がみられた。

3 これまでの活動成果

(2) 出荷体系の検討

- 農事組合法人かすかわ：5/12播種→8月下旬に収穫。6月の低温・長雨→生育の遅れにより収穫は10日程度の遅れ。7月の大雨では排水対策の効果はあったものの、湿害により収穫量は減収する見込み。
- 有限会社薬師農産：7月の大雨被害により栽培中止。→ 品種検討試験、経営調査の中止



大雨の被害状況



湿害の状況

4 今後の対応

(1) 排水対策・雑草防除等栽培技術支援

- 今年の実績を振り返り、課題の洗い出しと対策について検討。
- 次年度に向けて補助暗渠の種類検討及び施工（12～2月）。
- 栽培暦の改訂。

(2) 出荷体系の検討

- 播種時期及び収穫時期のデータを取りまとめ、出荷体系（作付体系）の組み立て検討。
- 労働時間調査結果を基に、必要に応じて作業体系の見直しを提案。